



知っていますか？ シックスクール

子どもの環境を考える親の会
連絡先 0134(25)1182 or(27)5100
e-mail sato-jin@star.odn.ne.jp
No.80 2010年11月
会報は皆さんの会費によって作られています。
郵便振替 02760-4-77134 1100円/年

子宮頸がんワクチンの公費助成に“反対”

ワクチン全国・日本消費者連盟らが厚生労働省へ申し入れ

ワクチン全国、日消連、新型インフルエンザ市民対策会議が連名で『子宮頸がんワクチンの公費助成に反対する申し入れ書』を厚生労働省へ提出しました。

申し入れ書では、ワクチンのサーバリックスは、副作用や有効性についての検証は十分なされていないこと、国のファクトシートによる情報提供においても、“実際に HPV ワクチン導入が全人口レベルで子宮頸がん患者や死亡の減少につながるかは、今後の長期にわたる調査研究が必要である”とされていること、国の審議会においても有効性や副作用被害の在り方について疑問とする発言がでてくることなどをあげ、公費助成に反対しています。

さらに、「自治体による公費助成は国が接種を推進するという強力なメッセージとなり、学校現場では強制力を伴う接種推進になりかねない。しかし、あくまでも任意接種なので、副作用による被害者は予防接種法上の公的救済がなされない。だから接種を後押しするような自治体への公費助成はすべきではない」というものです。

ワクチン全国集会で講師をされた産婦人科医の堀口貞夫さんによると、100～200種類もあるウイルスのうちがん化するのは15種。そのうち日本のワクチンが対象とするのは2種類。この2種類への感染者は子宮頸がん患者全体の約6割。残る4割はワクチンでは防げないとのこと。急増しているといわれる10代～20代の感染は、1割程度だそうです。ワクチン接種は、検診に変えられるのではなく、ワクチンを受けていても検診は必要だそうです。

WHOの推定では、子宮頸がんの発がん性HPV感染者3億人のうちがんになるのは感染者の0.15%。感染後の進行について実績評価は不十分。ワクチンの製造元であるグラクソスミス・クライン社は、今年輸入された新型インフルエンザワクチンと同じ会社であることから同社のワクチンのみが承認されている合理的な理由の説明も必要であると日消連は言います。また、多剤耐性菌にたいする薬剤の国内導入に向けて開発業者を募集したところ、ここでもグラクソスミス・クライン社が応募し、早期承認に向けた動きがあるようです。

参院議員会館でシックハウス

8月、民主党の桜井充参議院議員(54)が新しい議員会館で「シックハウス症候群」を発症したとし、参議院予算委員会で「国の化学物質の対策は十分だったか」と問題提起したそうです。

参院の新しい議員会館は7月1日に完成。高級ホテル並みの広さと内装の豪華さで私達の血税が使われたと批判がでた場所です。

桜井氏は、自分以外にも体の不調を訴えている議員(三原順子など)がいることや住宅建材だけでなく家具や絨毯などの備品もシックハウス症対策を講じるべきだと訴えたそうです。これを機会

に、桜井議員には、患者の立場にたった政策をお願いしたいです。

読書の秋 作者は「フィクション」といいますが…

パンデミック恐怖のワクチン／霧村悠康 二見書房 2010年5月初版

今年、インフルエンザの予防接種を打とうか…子どもの予防接種はどうしようか…と悩んでいる方におすすり！ワクチン開発の光と影を描いた医療ミステリーですが、これって多分本当のことだと私は思います。今年のインフルエンザ流行の前には是非読んでおいていただきたい一冊です。著者は、現役の医師。

有機リン農薬とADHD

栽培過程で農薬を使用した野菜や果物を多く摂取した子どもは、注意欠陥多動障害(ADHD)を発症する確率が高いとする論文が、小児科学誌「ピディアトリクス(米国の医学誌)」に発表されました。論文によると無作為に抽出した8-15歳の小児1,139人を調べたところ、有機リン系農薬の代謝産物の尿中濃度が10倍高いと、注意欠陥多動性障害のリスクが1.55倍高かったというものです。この調べでADHDの診断基準を満たした小児は、119人。

有機リンが神経発達に悪影響を及ぼすことは広く知られていますが、これまでの研究は農村地帯に住む農薬の摂取量が多い人を対象にしたものでした。しかし、研究チームは「今回のように中毒レベルではなく米国で普通に摂取されているようなレベルでも、農薬成分がADHDの増加につながっている可能性がある」として警鐘をならしています。有機リン被ばくとADHDとの因果関係をはっきりさせるには今後さらに研究が必要であるということです。

有機リン系の農薬は日本でも使われています。『環境汚染問題』の渡部和男氏は、「注意欠陥多動性障害の発症が、日常的に被ばくしているレベルの有機リンが一因でありうるということは、現在の日本の通学路や家庭の庭などで注意せずに有機リンが使われている事実を再考することが必要である。また、有機リンは注意欠陥多動性障害以外にもいくつかの神経疾患と関連があると疑われていることにも注意していかなければならない」と言っています。

神戸大名誉教授“中皮腫”公務災害認定 調査時に石綿吸引

公務災害の認定を受けた名誉教授は、1964年5～9月、地場産業の研究で神戸市のケミカルシューズ工場従業員から聞き取り調査をした際に、工場内で使用されていた石綿混入タルクを吸い込み、その30年後『腹膜中皮腫』を発症し死亡したというものです。これまでは、実験などにかかわった理工系大学職員の認定例はありましたが、文系の教職員の認定は初めて。今後は、“吹き付け石綿のある教室で授業をした”教員ら、他の教育現場での被害にも公務災害認定が広まる可能性があるということです。

“ホルムアルデヒド”を含んだ雨

富山大学の田口茂教授の研究チームの調査で、高濃度のホルムアルデヒドを含んだ雨が全国で降っている可能性があることが分かりました。これは、車の排ガスなどから放出されたホルムアルデヒドを、大気中で取り込んだためとみられています。研究チームは07年から富山市内で数回にわたり測定。12都道府県の計18カ所で雨水を回収し、ホルムアルデヒドを含むアルデヒド類の濃度を測ると、栃木県で最大0.64ppmを記録。大半の地点が0.1ppmを上回り、雨水中のホルムアルデヒド濃度は頻繁に水道水質基準(0.08ppm)を上回っている可能性があるということです。

降り始めや少雨のときに高濃度になる傾向があるそうですが、田口教授は「現状では雨にぬれても健康影響があるとは考えにくい、監視が必要だ」と話しています。ホルムアルデヒドは発がん性があり、シックハウスやシックスクールの原因物質の一つ。

一昔前は、放射能の雨の心配をしました。今度はホルムアルデヒドの雨。少しの雨だからと楽観せず、子どもたちにはなるべく雨にあたらないように話しましょう。



こどものシール帳から有害物質

消費者から「シール帳を使っていた子どもがニオイで気分が悪くなったので調べて欲しい」という依頼があり国民生活センターが調査を行ないました。

その結果、トルエン、エチルベンゼン、ナフタレン、キシレン、インデン、スチレンなどがシール帳から検出されました。これらの成分は、インキや接着剤の溶剤、合成樹脂の原料として使われる物質で、粘膜を刺激する臭気があり、吸入すると頭痛、めまい、吐き気を催すおそれがあるものです。